

第1号議案

平成29年度活動報告

●はじめに

我が国における65才以上の高齢化率27.7%(対前年度比0.4%増)が昨年発表されました。日本はその高齢化の最先端にあります。

認定NPO法人大阪府高齢者大学校(以下高大という)の果たすべき役割は増加する一方です。高大グループ全体(高大、区民・府民カレッジ、子どもプラザ)では3,000名以上となり、Osaka Koudai Advanced Learning System Supported by Volunteers=OKALS-Vの「高大の使命」を果たす時期が来ています。

また、昨年は台湾で交流し高齢者の社会教育環境の勉強を行い、プロフェッサーを引き受けて頂きました。

●基調報告

1. 認定NPO法人として平成29年9月14日に資格取得しました。高大が行政庁(大阪市)より運営組織及び事業活動が公益の増進に資するものだと認められたものであり、社会的にも認知されたこととなります。
2. 同窓会連協組織は大幅改革の時期を迎え、高大の同窓会という位置づけを明確にするため、校友会との連携を深め、昨年は東海地方で親睦を図りました。
3. 国家戦略特区の養父市との交流もさらに深め、高大祭では特産品販売も好評でした。
4. 教育部門と教科研究部門を分離し、現業部門と開発部門の強化を促す体制にしました。
5. 認定NPO法人化にともないファンド部の強化を図り、寄附金の増加を促しました。また、説明会を実施し受講生への浸透を図りました。
6. 東日本被災者支援大学校として、引き続き隔月の交流会を実施しました。
7. 子どものための「子ども科学フェスティバル」を北区民センターで開催し1,000名を超える子ども達が集まり盛大に開催出来ました。法円坂子どもプラザにおいても継続して実施することができました。
8. BSC部門ではDDS/AWARDの普及、浸透を図り、今年初めて「修了後の活動の場」について65クラス全部で討議しました。
9. 広報部ではプレスリリースの取り組みも軌道に乗ってきました。マスコミにも取り上げ回数が大幅に増加しました。

10. 事業部門では音楽会、養父市との交流、東日本被災者との窓口、うんちく講座、文化庁助成金事業・伝統文化親子教室も好評を博し活動が認知されています。
11. 姉妹校の大阪区民カレッジ・府民カレッジの運営も大阪府内の広域で認められ軌道に乗って来ました。高大として今後も連携と支援を行います。
12. NPO 法人大阪アクティブシニア協会は平成 30 年 3 月末をもって一定の役目を終えたことから解散することになりました。
13. 関西シニア大学校交流会のメンバーによる勉強会を平成 29 年 7 月に行い、10 月 27 日～28 日徳島で交流会を実施し、100 名以上が一堂に会し、飯泉徳島県知事の参加により大いに盛り上がりました。

また、首都圏との交流の定例化を図るためその前段として 6 月にかわさき市民アカデミー、千葉自然大学校と意見交換を実施しました。

●教育部門

今年度は受講生 2,725 名（被災受講生 2 名を含む）昨年より 2 科目増加となり、全 65 科目の講座でスタートしました。本科教務部メンバーで現場に根差した活動を実践しました。クラスディレクター会議を CD 連絡会と名称を改め、実態に即した運営を図りました。教務委員会は教務委員（正/副）の役割を明確にして情報の徹底を図ると共に、意見交換の充実を図りました。

また、毎月実施する曜日 CD 会議を通じ、CD との意思疎通を図り、迅速な対応により相互信頼関係を図れるように改善しました。曜日教務部長は各教室に出向き、現場・現物・スピード主義に徹し、受講生、CD、講師の生の声をタイムリーに吸い上げ、PDCA サイクルを的確に回すことに取り組みました。

1. CD およびスタッフの人材の発掘・育成については年間を通じ教育部門自らが行うとともに、戦略部門と連携し継続的な活動を展開しました。今後も継続して人材を発掘出来る取り組みが必要と考えます。
2. クラスミーティングの内容・進め方を見直すと共に、実践的な事例の水平展開を図りました。また、白熱教室についても講師への意見調整並びに、テーマ選択について見直すと共に、評価システムの効果測定の充実を図りましたが、更に課題の対応を図ることとします。
3. 学習事業推進部は主要行事に教育部門のメンバーが顧問を務め、アドバイザー制度も継続し、円滑な運営を図りました。更に、CD・クラス委員長（クラス代表者）及び行事ごとの運営委員が連携して推進できるネットワークを構築し、迅速かつ効率的に運営できるようにしました。
4. 校友会と高大は、車の両輪であり、高大方事はもとより、校友会との共催行事およ

び DDS（同期同窓会）の運営などを通じ、連携強化に取り組みました。今後もより引き続き取り組み強化を図ります。

<本科教務部>

1. 本科は 45 科目から 47 科目に増設し、2,178 名の受講生を受け入れました。
CD の配置は 2 名体制を継続しクラス運営の強化を図りました。
クラスミーティングの運営は、本音の議論ができるよう楽しい雰囲気づくりを目指し、一年間を通じた仲間づくりに力点を置きました。校外学習の併用により、社会への参加活動に結び付く、活動事例を紹介する授業も展開しました。
2. 6 年目の取り組みとなる高大白熱教室を、さらに進化させるため、講師陣に対しても CD を通じて、意見交換を行いました。定着までには、まだまだ課題も散積しています。
3. 講師交流会は、全科目の講師が出席出来るように実施方法を見直し、10 月に開催しましたが、大きな改善はできませんでした。
4. 入学式、修了式の儀礼的な式典は短く、全員が出席して楽しい手づくりの行事をする企画・運営を前提に実施しましたが、大きな成果を上げるまでには至りませんでした。
5. 各クラスの委員長との連携を深め、クラス運営が円滑に推進できるように昨年より実施した「全クラス委員長会議」を定例化して 5 月に開催しました。
6. 平成 29 年度入学時のオリエンテーションは、「曜日別合同オリエンテーション」として、高大の重要施策（白熱教室、社会参加活動、クラスミーティング他）について受講生に直接説明し、情報の共有化を図りました。
7. 大阪市教育会館（以下教育会館）、大阪府社会福祉会館（以下福祉会館）、住之江公園管理事務所（以下住之江公園）、森ノ宮ホール（以下森ノ宮）の各教室担当を定めて巡回し、きめ細かにフォローする体制を作りました。
8. 「曜日別 CD 会議」を毎月開催し、情報交換のうえ、問題提起・課題解決を図ると共に、CD の連帯感を高め、授業の円滑な運営を図りました。具体化した課題は総務部門と毎月検討の場を持ち、解決に努めることにしました。

<実践研究部>

1. 18 科目（シルバーアドバイザー養成科 3 講座含む）585 名の受講生を受け入れました。「学習としての社会参加活動」の趣旨を受け継ぎ、各科独自の社会参加活動を実践し、それぞれ効果をあげるべく努力をして参りました。
2. 社会への参加活動の実践を継続的に発展させるため、BSC 部門をはじめとして、

大阪区民カレッジ・大阪府民カレッジ・校友会・その他高大関連団体及び地域社会との情報交換や活動の交流を図りました。特に、BSC 部門と連携を深め「修了後の活動の場づくり」につながるように、全受講生を対象に、説明の場を持ちましたが短期間で顕著な成果は上がりず継続した粘り強い取り組みが必要です。

<学習事業推進部>

1. 遠足、スポーツ交流大会、高大祭、社会への参加活動、学習成果発表会、修学旅行などの学習事業では、受講生代表委員を支援し運営を推進しました。また、クラブ活動を積極的に奨励し、自らの趣味と経験を基にした仲間づくりを促進しました。
2. スポーツ交流大会及び高大祭の実施について、学習事業実行委員会が推進母体となり受講生、校友会、大阪区民・府民カレッジと一体となって実施しました。特に、今年度もスポーツ交流大会、高大祭には専任の実行委員長を置き、学習事業実行委員会を推進して内容の充実に努めました。会場は、大阪市中央体育館（港区）、中之島公会堂（北区）に変更して開催しました。また、本年度も養父市との連携協定の一環として、スポーツ交流大会にも特別参加してもらい、昨年以上に参加者から物品販売について高い評価を得ました。

<校友会連絡部>

1. 高大 BSC 部門と協力して、校友会への入会募集活動を推進しました。
2. 高大主催のスポーツ交流大会、高大祭、夏・冬の音楽会等に参加協力を図りました。
 - (1) 高大主催の行事に参加し、校友会入会募集活動を促進しました。
 - (2) 同窓会連協の「文化祭」への参加協力や「教養講座」への参加協力を推進し、高大用のパネルを準備し、展示も行いました。
 - (3) 高大と校友会との共催で実施する親睦一泊旅行への参加協力を推進しました。
 - (4) 高大祭への協力として、模擬店だけでなく、校友会メンバーや、同窓会連協参加依頼を行い、各地区の役員や会員が多数参加しました。

<大阪区民・府民カレッジ>

1. NPO 法人大阪区民カレッジは中央校、北校、城東校、東成校、天王寺校、西校の 6 校、NPO 法人大阪府民カレッジは東大阪校、ひらかた校の 2 校、地域密着型カレッジは、合計 8 校 320 名の受講生を受け入れ、年間 26 回の講義を行い 3 月に修了しました。
2. 大阪府民カレッジは堺市、大東市、四條畷市、豊能町、能勢町、富田林市、八尾

市の各市町に地域密着型カレッジの開校を進め、設立の準備を整えました。

3. 大阪市内はNPO 法人大阪区民カレッジが、大阪府下はNPO 法人大阪府民カレッジが運営します。設立趣旨は同じであり、連携して活動してまいります。
4. 高大方事のほか、区・市町主催等の社会参加活動に40回以上参加し、高大グループや地域との交流に勤めました。

<大阪アクティブシニア協会推進部>

1. 大阪府委託事業「アクティブシニアがあふれる大阪事業」を府下5ブロックにおいて「フレイルサポーター養成講座」、1ブロックにおいて「ボランティアリーダー養成講座」というテーマで計6ブロック（延べ参加者468人）にて開催しました。
2. 「アクティブシニアフェスタ2018」を大阪市立中央会館において、平成30年2月18日「笑顔あふれるシニアの皆さんと子供たちとの交流の集い」を開催し、約710名の来場者を得ました。
3. 大阪市内小学校いきいき教室、デイサービス、全労済委託の手作りおもちゃ教室、近畿労金のおもちゃ教室・科学実験教室のイベントなどの大阪出前サポートバンク事業を実施しました。
4. 大阪府からの委託事業が中止になったこと並びに一定の役目を終えたことから、NPO 法人大阪アクティブシニア協会を2018年5月末日総会の決議をもって解散することとなりました。今後も有用と思われる事業については、大阪府高齢者大学校に引き継ぎしていくこととします。

<シニアスポーツ推進部>

1. 生涯スポーツディレクター（以下SSD）高大グループは高大スポーツ交流大会で競技指導・審判協力、シニア向けのニュースポーツの出前サポートに協力を行いました。
2. 「大阪マラソン」500名、「大阪国際女子マラソン」215名のボランティアが参加しました。大阪府及び、産経新聞社から多大なる謝辞を頂きました。
3. (公財)日本相撲協会との提携で、大相撲名古屋場所・大阪場所の切符斡旋を行い、約100名の方々が大相撲観戦いたしました。
4. 「河内音頭大会」八尾市久宝寺緑地へ高大、同窓会連協八尾、南部の3団体が参加しました。
5. 脳トレの一環として、高大、校友会合同「スポーツ健康麻雀大会」を年2回実施しました。

●教科研究部門

1. 講座改革委員会、分野別専門部会などを通して「先駆的なカリキュラム」の構築と「魅力ある講師の発掘」に努めました。
その結果、科目数的には昨年度と同じですが、本科で3科目増の50科目、実践研究部では3科目減の12科目となりました。
2. 歴史分野では講師の複数制も取り入れ、多くの専門分野の講師から学べる、より充実した科目内容にしました。
3. 2年先の講座科目を、年度末までに検討出来る体制になって来ましたが、分野別専門部会では、今少し検証する必要があります。
4. 昨年度から実施しました講座提案制度も継続して実施し、より受講生目線に立った講義に注力しました。その結果、講座提案制度から1科目を開講しました。
5. 全受講生を対象にしたアンケートを2月に実施しました。集計内容を検証しながら、今後高大の運営に生かして参ります。
6. 人財バンクについては運用開始を始めましたが、課題もあり実績を残すレベルには到達しませんでした。

●事業部門

<事業企画部>

1. 文化庁助成金事業・伝統文化親子教室の推進
 - ・文化庁助成金の申請取得により伝統文化親子教室を実施しました。
 - ・第1回を平成29年7月15日(土)に開催し10月28日(土)まで全5回開催しました。
 - ・大阪府中央区内の幼稚園や小学校に参加を呼び掛け、やじろべえ、こま、おり染め、組みひも、万華鏡、花びら風車等の歴史を分かり易く紹介し、親子で作る喜びを体験してもらいました。延べ98組202名の参加を得ました。
 - ・11月8日(水)開催の高大祭でその作品を発表し、好評を得ました。
2. 高大と養父市学習連携事業について
 - ・学習連携が円滑且つ発展的に進むように、学習連携連絡会議を2回開催し意見交換を行いました。
第1回は4月19日(水)に高大にて高大側13名、養父市側4名出席の下 物産の販売拡大策並びに訪問促進策について協議しました。マスコミの取材がありその模様は健康福祉情報新聞に掲載されました。
第2回は9月13日(水)の養父市市役所で高大側、養父市側各々2名の出席でこれからの取り組みの進捗状況確認、今後の進め方について意見交換しました。

- ・ スポーツ交流大会と高大祭にて、養父市側から特産物 出張販売が行われ好評でした。
 - ・ 3年間の学習連携協定が平成 29 年 11 月終了し、新たに覚書きを追加し更新契約を締結しました。
3. 企業との学習連携事業の推進
- ・ 大和ハウス株式会社充実ネクストライフサポート事業部に、高大のノウハウを生かした学習連携を提案し、平成 30 年 2 月 4 日(日)ダイワハウス主催セミナー「温故知新:日本の美しいしきたりを学ぶ」に和食を愛する科 講師阪口恵子氏を有償で派遣し、企業との学習連携の第一歩を踏み出しました。

<イベント部>

1. 講習会、講演会、見学会の開催

(1)「普通救命講習会」の開催

- ・ 東消防署の協力を得て、平成 29 年 6 月 15 日(木)に CD とクラス委員長を対象に、9 月 26 日(火)に受講生と CD を対象に合計 2 回、多目的ルームで開催しました。
- ・ 心肺蘇生術と AED(自動体外式除細動器)の使い方を学び、参加者は合計 44 名でした。

(2)「特殊詐欺防止講習会」の開催

- ・ 大阪府警察本部、東警察署の協力を得て、平成 29 年 7 月 14 日(金)に、なにわの宮ホールで開催しました。
- ・ 年々増加する振り込め詐欺、還付金詐欺等の防止を学びました。参加者は 92 名でした。

(3)「四天王寺の歴史に学ぶ」講演会、見学会の開催

- ・ 平成 29 年 9 月 30 日(土)和宗総本山四天王寺で開催しました。
- ・ 四天王寺執事南谷恵敬氏から、四天王寺創建から今日までの歴史、聖徳太子の功績、大阪での存在などについて講演を頂き、境内建造物や宝物を見学しました。参加者は 64 名でした。

(4)「ウイスキーうんちく講座」講演会の開催

- ・ 平成 30 年 1 月 18 日(木)なにわの宮ホールで開催しました。
- ・ 講師に日本ソムリエ協会認定ソムリエであるアサヒビール株式会社マーケティング部担当部長箕輪陽一郎氏を迎え、①お酒とは?②ウイスキーとは?③竹鶴政孝ストーリー等の講演を聞き、ウイスキー3点を試飲しました。参加者は 120 名でした。

2. 音楽会の開催

(1) 「第 6 回サマーコンサート」の開催

- ・平成 29 年 8 月 27 日(日)エルおおさか・エルシアターで開催しました。
- ・次代を担う若手女性音楽家により、クラシック、映画音楽、ポップスなど 14 曲が演奏された。来場者は 487 名でした。

(2) 「第 10 回いずみホール音楽会」の開催

- ・平成 30 年 2 月 24 日(土)いずみホールで開催しました。
- ・出演者は、連続 5 回出演の大阪音楽大学ジャズオーケストラで 今回特別ゲストに Mitch(ミッチ)さん、を迎えました。
- ・第 1 部はジャズアレンジされた懐かしい昭和歌謡が 5 曲、第 2 部はジャズオーケストラをバックにミッチさんのトランペットとボーカルでした。参加者は 577 名でした。

<被災地支援部>

1. 「東日本被災避難者交流会」の開催

- ・交流会を 5 回開催しました。
- ・第 1 回は平成 29 年 4 月 24 日(月)に被災者 4 名の出席を得て、当年度活動計画の策定と懇談会を実施しました
- ・第 2 回は 6 月 21 日(水)に 4 名の出席で「藪から棒体操(養父市シルバー人材センター制作)」の紹介をしました。
- ・第 3 回は 9 月 15 日(金)に 3 名の出席で、台湾視察及び養父市天体観測報告会を行いました。
- ・第 4 回は 10 月 16 日(月)に 3 名の出席で、懇親ボウリング大会を行いました。
- ・第 5 回は 12 月 12 日(火)に 4 名出席で、事業部門との忘年会を実施しました。

2. 蠣養殖産業の復興を願い、ヤマヨ水産(宮城県気仙沼市大島)のオーナー制度に申込みを継続しました。

3. 「ホッとネットおおさか避難者交流会」が 6 月 25 日(日)大阪府立大学 I-site なんばで開催されました。支援団体等から 85 名、避難者は 13 名が参加しました。相談コーナーや交流コーナーが設けられましたが、避難者の参加が少なかったのが残念でした。

●情報管理部門

<教務事務部>

1. 受講生 2725 人の集計管理と受講生台帳と出席簿の学期単位のデータベース化並びに修了証書・皆勤証書の発行を行いました。

2. CD の交通費と講師の謝金の管理システムにて円滑に運営しました。

<システム部>

1. 募集データの集計システムと個人情報の管理、入学準備の体制づくりを行いました。
2. 募集申し込みを、ホームページから出来るシステムを導入し、700 人以上の利用者がありました。

<子ども事業推進部>

1. 「法円坂子どもプラザ」 科学実験とモノ作り教室を年 8 回開催しました。
2. 第 7 回「法円坂子ども教室フェスティバル」は 7 月に開催しました。
3. 第 2 回「大阪科学フェスティバル」は北区民センターで、約 1700 人の入場者で行いました。
4. 「IT パソコンお絵かき教室」は近隣小学校・幼稚園を中心に 15 回開催しました。

<ホームページ部>

1. 4 月にリニューアルした HP でアクセス数が倍増し、募集要項、オープンキャンパス、講座説明会、カリキュラムと募集の情報をタイムリーに提供しました。
2. 高大「イベント」の告知と報告のスピードアップ化を図りました。
3. クラスブログは 27 クラスと 3 クラブが高大ホームページにリンクしました。

●B S C 部門

1. SA 講座修了生を対象に シルバーアドバイザー大阪府知事認定証取得に関する業務を遂行、10 月に授与式を 府民カレッジ、区民カレッジと合同で開催しました。
2. 6 月にボラバスを企画、抽選で選ばれた 54 名の方々が参加、社会貢献バスツアーを実施しました。
3. 『修了後の活動の場』とし、前半には社会参加活動へのきっかけ作りや具体的な活動実施例の紹介、後半には、同窓会の説明から入会案内まで 2 回に分けて実施しました。
4. DDS 活動を募集、34 件の団体より活動報告書の提出を受け、2 月に活動報告発表会を開催しました。
5. 社会参加・貢献活動を称える賞として『KOU DAI AWARD』を募集、9 件の応募があり、外部審査委員会において、2 件の「KOU DAI AWARD 賞」、3 件の「奨励賞」を選出し、表彰式及び発表会を開催しました。

●戦略部門

<調査・政策部>

1. 関西シニア大学校交流会及び勉強会

定例の関西シニア勉強会は平成29年7月12日に実施し、第6回交流会は徳島県主催で同年10月27・28日の両日に実施されました。先の勉強会において、共同宣言内容を踏まえた具体的な行動として、首都圏、中部地方等の生涯学習支援組織との交流について提案しました。世の中が求めるシニアのあり方や活動に積極的に取り組める企画提案を発信していきたいと考え、本年3月7・8日の両日で首都圏シニアカレッジ等との意見交換会も実施し、高大の存在感を一層高めることができました。

2. 「高大グループ構想」による経営基盤強化の検討

5年先を見据えた戦略として検討を深めてきた「高大の経営基盤強化」について、高大グループ全体として経営基盤を強化する取り組みをスタートさせました。高大のみならず、校友会や同窓会活動を含めた幅広いグループ全体の取り組みとして活動の具体化を展開しました。

3. 特別教材（高大10周年記念誌）の活用

平成29年3月に刊行された「高齢者が動けば社会が変わる—NPO法人大阪府高齢者大学校の挑戦—」を特別教材と位置づけ、スタッフを含めた高大全体として社会参加活動の具体的な展開に向けた論議に活用しました。

研修会の実施結果や参加者の反響をアンケート等で集約し、今後の活動に活かす取り組みを展開しました。

<人材発掘事業開発部>

1. ゆめサロンの開設

高大の発展には、「人が宝」であるとの基本に立ち返り、関係部門の持つ強みを活かし、「協働で人材を発掘する体制づくり」として、従来の「おでん会議」を発展的に解消し「ゆめサロン」を新たに開設しました。昨年12月から本年3月末まで5回、延べ100名に及ぶ参加者を得て「ゆめサロン」を開催しました。

●広報・総務部門

●広報部

<広報誌>

広報誌「れいんぼー」は年4回（5, 9, 11, 1月）をオールカラーで発行しました。インタビュー、対談方式などを取り入れて読みやすい紙面作りを推し進めました。

又、企業広告を掲載することで、印刷費の削減が出来ました。

<パブリシティ>

プレスリリースによる取材依頼を実施しました。結果、新聞社、テレビ、ラジオからの取材申込及や受講生、スタッフ等へのインタビュー及び出演依頼がかなり増えました。高い確率で記事として取り上げていただき「コーダイ」の知名度アップに繋がりました。

<企業対応>

企業対策について、新人受講生獲得を目的に企業への協力を依頼し、約 34,000 部の募集案内要項、校内広報誌「れいんぼー」等高大の資料を企業 OB に対し、配布、PRを行いました。なお、本年度は高大創立 10 年にあたり発行しました「高齢者が動けば社会が変わる」記念誌を配布し認知度向上に努めました。

●総務部

平成 29 年度は教員会館 A 棟に 11 号室、12 号室の教室ができたことから美術系、語学系を中心に受講していただけるようになりました。

特に美術・写真系については道具類の保管用専用倉庫の借り入れを行いました。

<経理部>

認定 NPO 法人取得に向け、皆様方のご協力を仰ぎながら、スタッフ一同が一丸となって経理の適正性を期し邁進した結果、9 月 14 日に大阪市長より、認定特定非営利活動法人として認定した旨の通知書を受理する事が出来ました。

<事務局>

1. 印刷機の見直しについて

従来の印刷機器を抜本的に見直し、リース期間終了を機会にゼロックス複合機の導入を行い、印刷に関わる稼働の節減化を図りました。

2. 保険金の見直しについて

行事（レクリエーション）参加者傷害保険活動保険について、契約の見直しを行い、賠償責任保険の増額を行いました。

また、入院・通院費それぞれ増額いたしました。

<ファンド部>

賛助会員の募集を本格的に開始し、9 月 14 日には、認定特定非営利活動法人となり、個人や法人からのご寄附が税制優遇を受けられるようになったのを機にファンド部を立ち上げました。

●募集委員会

第1回募集委員会を4月16日に開催し、前年度の応募結果と科目選定と定員及び地域別受講生の分布を分析、検討しました。「平成30年度受講生募集」は、募集開始日を平成29年10月2日、募集締切日を12月8日午後5時までとし、大阪府からのプレス発表を9月初旬にするように依頼しました。

(1) 高大に初めて受講される「優先入学制度」を導入し、新規入学を推進しました。

(2) 年齢・居住制限に拘わらず自由に受講して頂けます。

1. 本科50科目、SA養成3科目、実践14科目で計67科目2,857名の応募計画を致しました。前年に比べ、「日本城郭史と関西のお城探訪科」「科学を学びものづくを楽しむ科」「歌を愛し歌を楽しむ科」の3科目を新しく増設し、「大阪のまち歩きガイド科」1科目を休講と致しました。しかしながら当初計画より受講申込の少ない、「ハングル会話を楽しく学ぶ科」と「初めてのハングルを楽しむ科」とを統合、「カメラ芸術研究科」と「カメラ芸術創作科」を統合し「カメラ芸術応用科」を創設しましたので、65科目2,761名の計画に修正しました。
2. 大阪府の府政だより・大阪市・堺市ほか各市の区民だより、市政だより依頼し、掲載して頂きました。
3. 募集要項は32頁冊子を1万8千部、8頁冊子を5万部印刷し、大阪府、大阪市、堺市の公共施設のご協力頂き配布致しました。大阪市サービスカウンター3か所とピース大阪の地下鉄ラック5か所にも配布し、大阪中央図書館での高大紹介コーナー・美術展でも配布し、又今回、初めて大阪府下に本社を置く企業OB会・同窓会にも8頁冊子の募集要項とチラシ約2万枚を印刷、配布致しました。
4. 新聞広告（読売・朝日）は講座説明会を告知する広告に切り替え、又いちょう並木の裏面広告に9月～11月の3回、オープンキャンパスと募集要項の全面広告を行いました。又、NHKラジオやラジオ大阪での番組で紹介頂き、新規受講生の増加を図りました。
5. 講座説明会は新規受講の促進のために大阪駅前(午前と午後)で2回増やし、従来の本校2回、豊中・吹田・高槻・枚方・堺東と計9回実施し募集の浸透を図りました。
6. 市政だより、区民だよりの掲載状況を大阪府・地区SA・同窓会に依頼し、各理事・CDには募集要項の残数チェックと追加配布を依頼し徹底を図りました。
7. HPでは初めて募集申込の受付を行い、応募数720名の申込を受けました。又、リアルタイムな募集状況の更新により、閲覧数も増え、申込数の増加に繋がりました。
8. その結果、「平成30年度受講生募集」は65科目2,763名（昨年2,725名）の受講

生の入学が決定しました。

●第7回スポーツ交流大会

大会テーマは「元気に輝く仲間たち」を基に10月11日（水）大阪中央体育館で開催しました。参加者は受講生1,973名、区民・府民カレッジ・校友会・事務局の連合チーム280名の合計2,253名で行われ、曜日別5チームと区民・府民カレッジ・校友会・事務局の連合チーム6チームで競技を行いました。

今回の特徴はニュースポーツ・玉入れそれぞれ全講座参加で競技を行い、競技の勝敗は各々競技のポイントで成績評価を行いました。優勝チームは連合チーム、2位は水曜チーム、3位は火曜チームでした。自由競技・レク式体力測定なども行われ、特に体力測定はご自身の健康管理面で人気がありました。河内音頭・フォークダンスは仲間との絆が深まり盛り上がりました。また、高大と提携している養父市の物産販売コーナーも設けられ好評でした。

●高大祭

第9回目に入った今年の高大祭は、これまでの会場の吹田メイシアターが耐震工事のため使用できず、中之島公会堂を全館貸し切って行いました。

国の重要文化財という歴史的建造物で行ったことに誇りと喜びを大いに感じた高大祭になりました。11月8日は小雨でしたが多くの人が早朝から駆け付け、参加者は延べ3千人を超えました。各クラスの工夫を凝らした展示、練習を重ねた演芸、講師による特別演技など所狭ましと繰り広げられました。夜は第2部として大交流会を実施、疲れを見せぬ高大生のパワーが見せつけられました。

ただ、重要文化財の制約があり会場が狭く、EVなど当時のままという不便さが重なり参加者に相当の負担もかけました。来年の10周年記念事業では広々とした会場での開催が求められています。

●学習成果発表会

一年間の学習の総まとめとして、全クラスにおいて、平成30年2月26日～3月2日に学習成果発表会を行いました。班単位の発表や個人別発表など各科の特徴を生かし、創意工夫に富んだ盛り沢山の内容でした。年々、レベルが向上しております。

受講生自身が企画・運営する展示会や展覧会を開催し、学習成果を外部に対して発表する取り組みも行われました。特に、昨年初めて開催し、2年目となる美術分野の7科及びカメラ芸術科も加わったATC合同展示会は、更にレベルアップして

参りました。

なお、活動成果をまとめられた文集などは、昨年同様に今後の受講生の活動の参考にするため高大事務所（講師控室）に保管しています。

●修学旅行

全クラスにおいて、修学旅行を実施いたしました。行先は主に京都・滋賀など近畿圏内が全体の約 90%を占め、世界情勢からの影響か今年度は海外への旅行はありませんでした。

日帰りも宿泊もできる、柔軟な対応が可能な近隣地域が多く選ばれました。

実施日：平成 30 年 3 月 5 日～平成 30 年 3 月 9 日

	日帰り	宿泊	日帰りと宿泊
近畿（大阪・京都・奈良）	16	4	1
近畿（滋賀・和歌山・兵庫）	32	3	2
東海（愛知）	2		
その他（岡山・金沢）	3		1

●クラブ活動

今年度のクラブ活動は、28 組 587 名の受講生が参加しました。

昨年度より、クラブ数は少なかったのですが、参加者は上回り内容的に充実し、どのクラブも代表者の方々がとても熱心に取り組まれていました。

中には、クラブ活動から社会参加活動へと拡大されて、高大 BSC 部門の DDS 活動に結びつかれている組もありました。従来以上に、3 階掲示板の活用増が目立ちました。平成 30 年度は、高大同窓会との連携強化を図り、益々現役高大生・修了生とのコラボを数多くし、高大生・修了生との絆を深めていければと、クラブ活動に期待しています。

平成 29 年度「クラブ活動」一覧表

		クラブ名	科目
月	1	ロウリーボールクラブ柔力球	身の周りに関する法律を易しく学ぶ科
	2	高大朋映詩吟クラブ	シニアの健康と医療を易しく学ぶ科
	3	ノルディックウォーキングを楽しむ会	音楽を楽しむ科
	4	高大 楽歩会	身の周りに関する法律を易しく学ぶ科
	5	日本文学愛好会	歴史に輝く先人たちの生き方に学ぶ科
	6	楽しい English	基礎英会話科
火	1	高大デッサン研究部	油彩画専攻科
	2	みんなのコーラス	音楽鑑賞を深める科
	3	ハイキング	和食を愛する科
	4	絵画を楽しむ会	基礎から学ぶ美術科
水	1	みんなでオカリナを楽しむ会	国際文化交流科
	2	詩吟クラブ	現代社会を考える科
	3	スマホクラブ	IT・パソコンweb 専攻科
	4	史跡めぐり部	IT・パソコンweb 専攻科
	5	ゆらぎ体操	ボイストレーニングでシニアライフを楽しむ科
木	1	ハーモニカでも吹こう会	日本の起源と文化を知る科
	2	高大エッセー同好会	現代社会を考える科
	3	水彩勉強会	水彩画応用科
	4	将棋を楽しむ科	油彩画応用科
	5	朗読クラブ	朗読を楽しむ科
金	1	高大ボーリングクラブ	IT・パソコン専攻科
	2	社交ダンスで生き生き人生	フランスの魅力と初めてのフランス語を楽しむ科
	3	写楽会	鉄道を学び旅を楽しみません科
	4	英会話を楽しむクラブ	基礎英会話科
	5	高大南京玉すだれ	音楽を楽しむ科
	6	歴史街道散歩クラブ	世界の文化に親しむ科
	7	森之宮笑いヨガ	世界の文化に親しむ科
その他		高大駅伝部	教科研究部門

●高大なにわの宮会

【元気な風 ふかそう】を合い言葉に、高大内の風通しを良くすることを目的に、以下の様な活動を展開いたしました。

1. 挨拶運動

風通しの良い環境作りは挨拶からとの考えから、登校時の挨拶運動を実施しました。新学期、2学期、3学期の初めの1週間、および毎月定めた挨拶の日には、理事長以下高大スタッフと高大・なにわの宮実行委員が玄関に立ち、挨拶で受講生を迎える活動を展開しました。その結果、回を重ねるにつれて受講生からの反応も良くなり、活動の効果を感じる様に成りました。

2. 交流活動

受講生との交流の場として、理事長を囲む会・「00さんとお昼のティータイム」を設定し、受講生の意見、要望を汲み上げ、適切に解決して行く活動を展開しました。平成29年度は、26科目について実施しましたが、お互い自由に意見を述べ合うことが出来る環境が出来てきたと考えます。この場で出た意見要望は、出来ることは速やかに対策を実施し、時間がかかるものも中長期的に対応して行くことにしています。

3. 支援活動

眼鏡リサイクル活動

ライオンズクラブ国際協会が進める眼鏡リサイクル・プログラムを支援する活動を行い、受講生から提供を受けた眼鏡300本をライオンズクラブに贈呈しました。

4. 広報活動

(1) ブログ立ち上げ

高大・なにわの宮会のブログを立ち上げ、活動内容を掲載しました。

(2) 川柳広場

受講生間の交流の場として「高大・なにわの会川柳の広場」を設け、川柳を4回に、わたり募集しました。(お題は、第1回：風、踊り、第2回：酒、虫 第3回：高大祭、光 第4回：願うプレゼント。575作品で皆さんの思いを届けました優秀作品は、広報誌「れいんぼー」に掲載しております。

5. その他イベント活動

平成29年7月21日 夏の夕べを開催しました。高大生、OB 講師 教育会館関係者 パル法円坂 養父市 方々の協力で親睦と絆が出来ました。

● 大阪万博プロジェクト実行委員会

2025 大阪万博誘致を応援するために、勝手連として、大阪万博プロジェクト委員(略称：OBP 実行委員会)を平成 29 年 1 月に立ち上げました。大阪・関西を元気にする国家的プロジェクトに積極的に関わって活動をしていきたいと考えています。大阪府や 2025 日本万博誘致委員会の誘致活動に対する応援をおこない、誘致に成功をした際にイベントや各種事業に参加や協力をしていく事を目的に提言をして行くことを活動の柱としています。4 月以降の活動について次のとおりです。

1. 受講生等に 2025 大阪万博誘致の応援と開催の理解を得るために、応援ピンバッジを 2 千個製作し、購入していただきました。
2. 2025 日本万博誘致委員会から、誘致に賛同する会員登録、署名の依頼があり、多くの方の会員登録と署名(300 名)等、を提出しました。
3. 大阪府に「6 つの提言」を行いました。そのうちの 1 つである「健康寿命に対する高大受講生の意識調査」を受講生全員を対象にアンケートを実施いたしました。

● 10 周年プロジェクト

本校は、平成 30 年度創立 10 周年を迎えます。「祝・創立 10 周年記念式典」を開催するにあたり、平成 29 年 2 月に 10 周年プロジェクト会議を立ち上げました。構成はプロジェクト会議をヘッドに① 方針・進捗プロ ② 記念式典プロ ③ シンポジウムプロ ④ 10 周年コーダイ FESTA プロ ⑤ 広報プロ ⑥ 功労者表彰プロの 6 部会にて活動しています。

平成 29 年度は、プレ年度として受講生及び高大関係者の気運を盛り上げるため、プレイベントを 2 月 27 日～3 月 3 日の 5 日間南港 ATC ビルで ① 演奏会及び独唱、② 講演会 ③ カラオケ大会を実施し大いに盛り上がりました。広報プロは校名変更募集を実施しました、愛称を「コーダイ」と決定しました。